

ガム取り清掃と自己啓発

NPO法人環境まちづくりネット

藤尾武子

私は子育てを終えた専業主婦ですが、体調を崩した主人が家にいることが多くなったので、地域の為に何かお手伝いをする事が出来ないかと、新宿区の生涯現役塾へ行って学ぼうと、先輩の人たちが、歩道を黒く汚している吐き捨てガムを取り除く活動に取り組んでいるというので、これなら私にも出来ると考え、家の者に相談しました。

主人はあまりいい顔をしませんでしたが、子供たちは「まちをきれいにするんだから、いいんじゃない」と賛成してくれたことから週に2・3回ほどガム取り清掃に行っています。

このガム取り清掃は、チューインガムを噛む人たちが噛みかすを、包み紙にくるんで持ち帰ってごみ箱に捨ててくだされば、まったく必要のない作業です。その紙に包んでごみ箱に捨てる事が出来ない。

ガムの噛みかすで道が汚れようが、人に迷惑がかかろうが、われ関せずという人の多いことに驚きました。日本人の美德とされてきた公德心や衛生観念が希薄になったということでしょう。

私は、このガム取り清掃に参加して、こんな単純な作業にも創意工夫は必要だし、集中力が必要なことを知りました。ガム取りなんて簡単だと思っていたのですが、そうは問屋が卸しません。歩道にへばりついたガムの噛みかすを取り除くには、ガム取りヘラを、剥がしやすい箇所を探し出して差し込み、きれいに剥がすための工夫を凝らしながら、ガム取り棒を操作していくのです。このコツさえ覚えたら、あとは集中してガムの噛みかすと格闘するだけです。

立ったままでガム取りが出来る「ガム取り棒」と作業を滑らかに且つ除菌作用を持った溶液「ガム取り一番」があるので、車や人の流れに注意しつつ、ガム取り清掃に集中しさえすれば、次々にガムを取り除くことが出来ます。年配者でも出来るガム取り清掃作業ですから、家に閉じ籠もっているよりも街に出て、まち美化運動に参加し、少しでも社会に貢献して行ければ、自分自身の健康維持のためにもなる素晴らしい活動です。一人でも多くの方々が参加していただければ、街は、もっともっと輝くまちになると思います。

平成 22 年 3 月 25 日